

いじめを生まない学級を目指して

小学校4年 道徳 [友情]



1 資料名 「なんとなく」(出典 文溪堂)

2 資料の概要と教師の願い

これまでとても仲良しだったやよいのことが何となく疎ましくなってきた主人公みどりには、ある日、社会科見学のグループ分けで、自分を頼るやよいを無視してしまう。同調するクラスメイトも出てきて、やよいは孤立する。そんなやよいを見て心が痛むが声をかける気にもなれない。その後、忘れ物をしてしまったみどりは今まで注意してくれていたやよいを、実は自分も頼っていたことに気付く。これからは「なんとなく」ではなく、「しっかり」分かり合える友達になりたいと思うという内容である。いじめの未然防止には互いのよさや違いを認め、他を思いやる心情を育てなければならない。「いっしょにいて楽しいから好き」「おもしろくないから友達ではない」という表面的な関係ではなく、互いに理解し、信頼し、助け合う友達関係について焦点を当てたいと考えた。

3 授業の実際と児童の反応

友達と何となく話しづらくなったり、気まづくなったりしたことについて、資料を通してじっくり考え、話し合うことができた。そして友達とけんかをしたり、いやなことを言われたりすることもあるけれど、困ったときに助けてくれるなど、よいところもたくさんあるということを改めて感じ取ることができた。さらに、授業の終末には、友達のよいところを探してカードに書き、それらを交換し合う活動(参考:心のノート)を取り入れた。学級が、子どもたちにとって安心して生活できる心の居場所となるよう努めることが大切である。

～児童が書いたカードより～

〇〇さん

やさしいときや、さびしいときの両方がある、先生のようですね。 △△より

□□さん

理科が得意で、とても物知りです。ときにはやさしく教えてくれるところがいいと思います。 ☆☆より

◎◎さん

サッカー好きでいつも元気いっぱいです。健康的なところがとてもよいと思います。 ◇◇より

小学校5年 学級活動 [望ましい人間関係の形成]

1 題材名 「いじめについて考えよう」

2 活動の概要と教師の願い

「いじめ」について子どもたちは、「悪いこと」として漠然と捉えている。そこで、「どんなことがいじめになるのか」「いじめられたときにどんな気持ちか」「どうしたらいじめをなくせるのか」など多様な面から考えることが大切であると考えた。学級でいじめについて考えたり、道徳資料を活用しての話合いを行ったりして、いじめについて考えを深めるため、3週続けて重点的に取り組んだ。



3 授業の実際と児童の反応

1 時間目 いじめって何だろう

まず、「いじめってどんなことか」と聞いた。しかし、具体的なイメージは、ぼらぼらだった。そこで、一人一人に付箋を配布し、これまでに見たり、聞いたり、したり、されたりしたいじめについて書かせた。付箋一枚について一つのこととし、その付箋を集めて模造紙に貼った。子どもたちは、たくさんのいじめがあることに驚いていた。また、自分たちの身の回りでも起きているいじめについて具体的なイメージをもつことができた。いじめについても「自分がされたいやだと思ふこと」とまとまった。

2 時間目 自分の言葉で考えよう

NHKの道徳ドキュメント「自分の言葉で考える」を視聴した。番組では、いじめが原因で自殺した娘をもつ母の講演やグループでのいじめをなくすための話合いなどが紹介されていた。そこで、クラスでも「5年生や私たちの学校からいじめをなくすためにどうしたらよいか」というテーマで話し合った。その結果、次の四つにまとまった。①自分がされたいやなことは相手にしない、②きたない言葉は使わない(ほかほか言葉を使う)、③仲間はずれにしない、④大勢で一人を責めない。これらを守り、みんなで力を合わせて、いじめのない明るく楽しい学級、学校にするために頑張ることを確認した。

3 時間目 いじめについての思いをまとめよう

これまでの学習や経験などから、いじめについての思いをまとめた。「いじめについて思うこととその理由」「いじめをなくすための方法」などについて一人一人が考えを深めることができた。